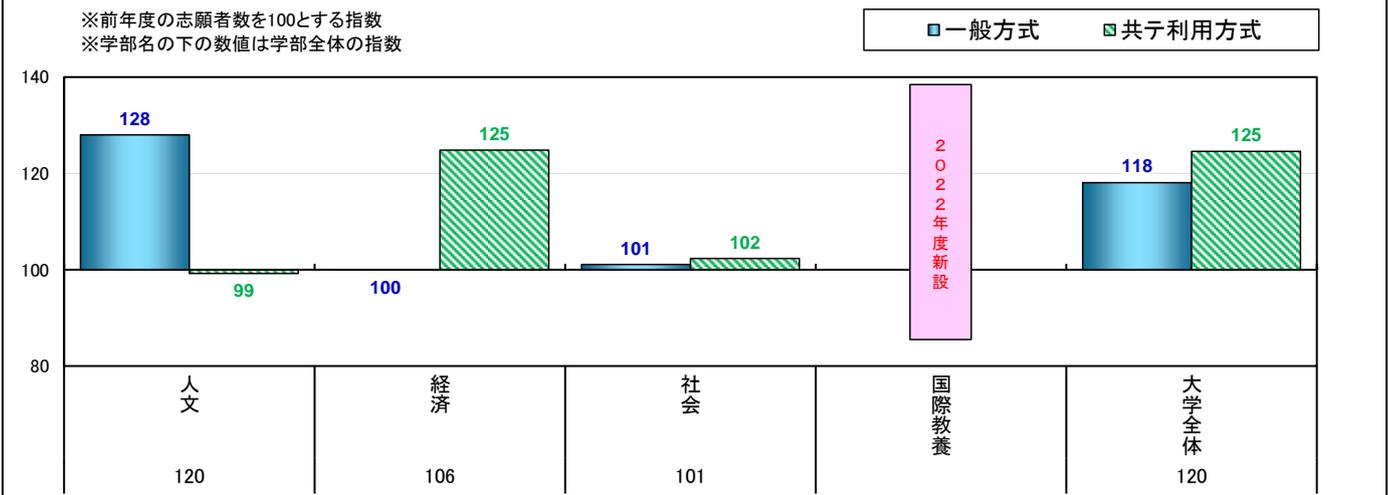


## 武蔵大：大学全体では3年ぶり増加、人文は大幅増加

一般：+1,949人 共テ：+955人



主な入試変更点 | 学部新設：国際教養(国際教養)

## COMMENT ※ ( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,904人(120)の大幅増加、新設の国際教養を除いても(107)のやや増加で3年ぶり増加。学部別では、3学部全てが増加。方式別では、一般方式は1,049人(118)の大幅増加で前年度大幅減少の反動、新設の国際教養を除いても(106)のやや増加、共通テスト利用方式は955人(125)の大幅増加で4年連続減少の反動、新設の国際教養を除くと(114)のやや増加。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ前期〉(118)は4年連続減少の反動で大幅増加、新設の国際教養を除いても(111)の増加。共通テスト受験後に「出願可能なく共テ後期」(157)は50%以上の大幅増加、新設の国際教養を除いても(142)の大幅増加、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

## 〈一般方式〉

- 人文(128)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(日本・東アジア文化)(136)、(ヨーロッパ文化)(129)、(英語英米文化)(120)は、いずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。募集単位別でも、すべてが増加。
- 経済(100)は、前年度大幅減少の反動はなく、微減で2年連続減少。学科別では、唯一増加の(金融)(104)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。(経営)(100)は微減だが2年連続減少、(経済)(97)はやや減少で3年連続減少。方式別では、〈全学部統一グローバル型〉(146)は前年度40%近い大幅減少の反動で大幅増加、〈全学部統一型〉(92)は減少で3年連続減少、〈個別学部併願型〉(97)はやや減少で2年連続減少。
- 社会(101)は、3年連続減少の反動はなく、微増に留まった。学科別でも、(メディア社会)(101)、(社会)(101)はいずれも微増で4年ぶり増加。方式別では、〈個別学部併願型〉(104)はやや増加で2年連続増加、〈全学部統一型〉(103)もやや増加で4年ぶりの増加だが志願者数は2年連続で1,300人を下回った。一方で、〈全学部統一グローバル型〉(84)は2年連続大幅減少。
- 新設の国際教養は、コロナ禍で人気低下している系統だが、一般方式の募集人員合計55人に対し、志願者数は1,267人、志願倍率は23.0倍で、一般方式全体の志願倍率27.1倍を下回った。

## 〈共通テスト利用方式〉

- 人文(99)は、2年連続大幅減少の反動はなく、微減で3年連続減少。志願者数は2年連続1,000人を下回った。学科別では、(英語英米文化)(118)は唯一増加で3年ぶり増加。一方で、(ヨーロッパ文化)(90)は4年連続減少、(日本・東アジア文化)(92)は減少で2016年度入試以降7年連続減少。方式別では、〈共テ前期〉(100)は前年度並、〈共テ後期〉(97)はやや減少。
- 経済(125)は、前年度30%以上の大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(金融)(253)は倍増以上の大幅増加、(経済)(122)は大幅増加、(経営)(83)は大幅減少でいずれも前年度と逆の増減。方式別では、〈後期〉(214)は2年連続減少の反動が大きく倍増以上の大幅増加、〈前期〉(107)はやや増加。方式別では、〈共テ前期〉(107)はやや増加、〈共テ後期〉(214)は倍増以上、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 社会(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(メディア社会)(127)は3年連続減少の反動で大幅増加、(社会)(82)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈共テ前期〉(102)、〈共テ後期〉(102)のいずれも微増。
- 新設の国際教養は、コロナ禍で敬遠される系統だが、共通テスト利用方式の募集人員合計25人に対し、志願者数は544人、志願倍率は21.8倍で、共通テスト利用方式全体の志願倍率23.2倍を下回った。